

【国語】 <中学校 第2学年>

1 結果のポイント

- 「話すこと・聞くこと」について、どのような事実を取り上げて話しているのかを正しく聞く力をみる問題等、すべての問題の正答率が90%程度である。
- 「書くこと」について、資料から分かることを主語・述語の整った文で書く力をみる問題の正答率が70%を上回っている。
- 資料をもとに具体的な例や体験から自分の考えや理由を決められた字数で書く力をみる問題の正答率が60%程度である。
- 「読むこと」について、指示語が示す内容を正しく理解しながら読む力や、文章中の語句の意味を正しく理解しながら読む力をみる問題等、多くの正答率が80%を上回っている。
- 文章を読んで筆者の意見について自分の考えとその理由をもつ力をみる問題の正答率が70%を下回っている。
- 「言語事項」について、中学校第2学年までに学習した漢字を正しく読む力や、古文の歴史的仮名遣いを正しく理解している力をみる問題等、多くの問題の正答率が90%を上回っている。
- 単語の働きを正しく理解している力や、漢字を正しく書く力をみる問題では、正答率が50%を下回っているものがある。

2 結果の分析

(1) 話し手の立場を理解しながら、話の内容を正しく聞く力をみる問題の例（「聞く能力」）

<問題> ㊦ の三

松本さんのスピーチを聞いて、今沢さんはどのような立場で感想を述べていますか。最も適切なものをア～エの中から一つ選び、符号で書きなさい。

- ア アメリカに比べ、日本の高校生の本を読む時間が少ないことを批判するという立場。
- イ たまに、息抜きのためにマンガを読むことは、気分がすっきりするのでよいという立場。
- ウ ミステリー小説が日本とアメリカでよく読まれていることに疑問をもつという立場。
- エ アメリカの高校生が受験に追われ、精神的に余裕がないことに同情するという立場。

<結果> 正答率 87.8%（正答…イ）

<分析>

この設問は、話し手の立場を理解しながら、話の内容を正しく聞く力をみる問題である。問題文の「松本さんのスピーチを聞いて」という表現から、松本さんのマンガを読むことに否定的な見方を踏まえた上で、今沢さんの「たまには息抜きに好きなマンガを読む方が、気分がすっきりしている」というマンガを読むことに肯定的な立場を聞き取ることができたと考えられる。また、「今沢さん」という発言者の名前を注意深く聞くこともできたと考えられる。昨年度と同様に、正答率が高く、話し手の立場を理解しながら、話の内容を正しく聞く力は身に付いているといえる。

(2) 資料をもとに具体的な例や体験から自分の考えや理由をもち、決められた字数で書く力をみる問題の例（「書く能力」）

<問題> ㊦ の二

「日常の言葉遣いや話し方、文章の書き方」などのうち、あなたが関心のあるものを一つ取り上げて、そのことについて意見を書きなさい。段落構成は二段落構成とし、第一段落ではあなたの考えを、第二段落ではそのように考えた理由を具体的な例や体験を交えて書きなさい。ただし、次の（条件）に従うこと。

- （条件）
- ①題名や氏名は書かないこと。
 - ②書き出しや段落の初めは一字下げること。
 - ③解答欄に合わせ、五行以上七行以内で書くこと。

<結果> 正答率 63.3% (正答…略)

<分析>

この設問は、「日常の言葉遣いや話し方、文章の書き方」についての資料をもとに自分の考えをもち、具体的な例や体験を理由に挙げ、決められた字数で書く力をみる問題である。一昨年度の類似問題の正答率は59.2%、昨年度は63.2%であり、依然として課題といえる。誤答には、第一段落に自分の考えが示されていないもの、根拠の中に具体例や体験がなく考えばかりが記述されているもの、二段落構成で書かれていないもの、段落と段落の内容につながりが見られないものがあった。この結果から、昨年度に引き続き、伝えたい事実や事柄と自分の考えや気持ちを明確にして、目的や意図を意識しながら、決められた字数や構成で適切に書く指導を一層大切にする必要がある。

(3) 文章を読んで、筆者の意見について自分の考えとその理由をもつ力をみる問題の例 (「読む能力」)

<問題> ㉓ の六

この文章を読んで、筆者が述べている「情報探索能力の身につけ方」について、あなたはこれからの生活で、どのようなことを大切にしていこうと思いますか。あなたの考えと、なぜそう考えたのか、その理由を書きなさい。

<結果> 正答率 65.5% (正答…略)

<分析>

この設問は、文章を読んで、筆者の意見について自分の考えとその理由をもつ力を見る問題であり、今年度新たに設けられたものである。解答欄に何らかを記述した生徒は90%程度あったが、「情報探索能力を身に付けるにはまず自分で情報を探すこと」という筆者の意見を踏まえずに書いていたり、意見を踏まえていても理由が書かれていなかったりするものが多かった。この結果から、筆者の意見を正しくとらえ、それに対する自分の考えを、理由を明らかにしてもつという論理的な思考力が身に付いていないと考えられる。特に、書き手の思考や気持ちに迫り、読み手としての立場から人間、社会、自然等について考え、自分の意見をもつことの指導が必要である。

(4) 単語の働きを正しく理解する力をみる問題の例 (「言語に関する知識・理解・技能」)

<問題> ㉔ の三の1

次の1～4のそれぞれの文では、() のどの言葉を選択するのが最も適切ですか。ア～エの中から、一つ選び、符号で書きなさい。

1 「私は、本をゆっくり読む。」の文中にある「ゆっくり」の〈品詞〉は、(ア動詞 イ形容詞 ウ名詞 エ副詞) である。

<結果> 正答率 140.5% (正答…エ)

<分析>

この設問は、単語の働きを正しく理解する力をみる問題である。誤答として、「形容詞」が最も多く60%程度、続いて「動詞」で30%程度であった。この結果から、第1学年の「単語の類別」の理解を踏まえ、それぞれの単語のもつ文法的な役割を理解できるようにし、活用の有無や文中での働き等に関する内容を確実に指導していく必要がある。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

・「話すこと・聞くこと」については、話し手の立場や意図を考えながら話の内容を正しく聞く力や、説明の仕方を工夫して相手が納得するように話す力を高めることが大切である。そのために、「話すこと」と「聞くこと」を関連付けて指導する年間指導計画となるよう配慮する。さらに、話し手の目的や願いを聞き取ることや、文の効果的な使い方を意識して話すことに配慮ができるよう、

単元指導計画を改善する必要がある。

- ・「書くこと」については、様々な図や資料をもとに、具体的な例や体験を根拠にして自分の考えを決められた条件で書く力を高めることが大切である。そのために、「書くこと」の指導事項「ウ 構成、エ 記述」に重点を置き、多様な文種、文章形態で書く機会を多く設定するよう、年間指導計画を改善する必要がある。
- ・「読むこと」については、文章中の語句の意味を正しく理解しながら読む力や、文章を読んで筆者の意見について自分の考えとその理由をもつ力を高めることが大切である。そのために、年間を見通して、指導事項「エ 主題や要旨と意見」を計画的に位置付け、繰り返し指導できるよう配慮する。また、読んだことをもとに自分の考えと理由につながりをもたせて話したり、書いたりする活動や、学校図書館との関連を図った活動等を位置付けるよう、単元指導計画を改善することも必要である。
- ・「言語事項」については、特に、書写指導に必要な授業時数を適切な時期に確保するとともに、「単語の類別についての理解」の指導事項を再確認するなど、年間指導計画を見直す必要がある。

(2) 指導方法の工夫改善

- ・「話すこと・聞くこと」については、事実と意見の効果的な構成や、説得力のある論理の展開に気を付けて話したり、聞き取ったりする力を高める指導が大切である。そのために、相手・目的意識等の「五つの言語意識」を学習場面ごとに意識できるようにし、話の構成について、評価項目・方法を明確にし、客観的に自己評価したり、相互評価したりすることを通して、互いのよさや課題を振り返ることができるようにする必要がある。
- ・「書くこと」については、自分の立場を明らかにし、その根拠を自分の体験や具体的な事実等から見付け、論理の展開を工夫して書く力を高める指導を継続することが大切である。そのために、考えとそれを支える根拠のつながりや、効果等について検討する場を位置付けることが必要になる。また、決められた字数で書くことについても、改行や接続する語句、文意にふさわしい文末の表現に留意しつつ、文章全体を見通しながら書くことが意識できるよう繰り返し指導し、生徒一人一人の書く力を丁寧に見届け、個の学習状況に応じて個別に指導していくことが必要である。
- ・「読むこと」については、文章・図表等の様々な資料を深く読み取り、筆者の意見について論理的に考察し、自分の考えとその理由をもつ力を高める指導が大切である。そのために、筆者の主張や作者の意図、その根拠となる叙述、あるいは効果的に伝えるための工夫等を明らかにすることを読みの目的として、筆者や作者のものの見方や考え方を自分自身と対比して考えさせ、自分の意見をもてるように指導していくことが必要になる。
- ・「言語事項」については、語句や語彙等の理解を深め、特に単語の類別・働きについての知識・理解が一人一人の生徒に確実に身に付いているかを見届けることが大切である。そのために、漢字の習得状況や語彙の使用状況、文法に関する理解状況等の把握に努め、学習状況に応じた指導が必要になる。また、書写指導においては、行書の書き方に慣れ、読みやすく整った文字を速く書く力を育てることに重点を置くことが大切である。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・多様な辞書類の活用や、学習した漢字を文章中で使うことなどを習慣化させるとともに、敬語等の社会生活に必要な正しい言葉遣いについても配慮して言語環境を整えることが大切である。また、生徒が主体的に資料を活用しながら情報活用能力を高められるよう、学校図書館等の積極的な活用に配慮する。
- ・基本的な学習姿勢として、話し方、聞き方、話し合いの仕方について継続して指導するとともに、互いの立場や考えを尊重し合う中で伝え合うことの価値を理解し、温かさや厳しさのある人間関係を基盤に、共に高まり合おうとする学習集団の育成に努める。
- ・自らの言語生活を振り返り、習熟が必要な内容や発展的な読書、調べ学習等、言語の力をさらに高めるための自己課題を明らかにし、学習習慣の確立に向けて家庭学習の充実を図るようにする。